

学生移動 (Student Mobility) の 更なる促進に向けて ～AUN質保証プログラムアセスメン ト受審の経験から～

Dr. Wyona C. Patalinghug

デ・ラ・サール大学(フィリピン・マニラ)

2013年10月1日

ASEAN+3高等教育質保証フォーラム



De La Salle University

学生移動の更なる促進に向けて ～AUN質保証プログラムアセスメント受審の経験から～

- ・ ASEAN大学連合(AUN)とその質保証活動の背景
- ・ AUN質保証の基準と評定尺度
- ・ AUN質保証アセスメントの主なステップ
- ・ プログラムアセスメントの実施状況
- ・ AUN質保証アセスメントで得た経験
- ・ プログラムアセスメントから自発的な取組みへ
- ・ デ・ラ・サール大学におけるAUN版単位互換制度(AUN-ACTS)の活用
- ・ 学内方針の見直し





ASEAN University Network

- ・ ASEAN大学連合 (AUN) は、**1995年**の第4回ASEAN首脳会議における、各国教育大臣および主要大学の学長により設立。
- ・ AUNは、当該主要大学間の既存の連携体制強化を目的とする。
- ・ AUNには主要大学が加盟しているが、AUNの活動そのものは、他のすべての大学も包含している。
- ・ AUN設立時は11大学で構成。



AUN 加盟大学（計30大学）

	<p>ブルネイ・ダルサラーム国 ブルネイ・ダルサラーム大学</p>	
	<p>カンボジア 王立プノンペン大学 王立法経済大学</p>	
	<p>インドネシア ガジャマダ大学 インドネシア大学 バンドン工科大学 アイルランガ大学</p>	
	<p>ラオス人民民主共和国 ラオス国立大学</p>	
	<p>マレーシア マラヤ大学 マレーシア科学大学 マレーシア国民大学</p>	<p>マレーシア・プトラ大学 マレーシア北大学</p>



AUN加盟大学（30大学）

	<p>ミャンマー ヤンゴン経済大学 ヤンゴン大学</p>	<p>マンダレー大学</p>
	<p>フィリピン デ・ラ・サール大学 フィリピン大学</p>	<p>アテネオ・デ・マニラ大学</p>
	<p>シンガポール シンガポール国立大学 南洋理工大学 シンガポール経営大学</p>	
	<p>タイ チュラロンコーン大学 ブーラパー大学 マヒドン大学</p>	<p>チェンマイ大学 プリンス・オブ・ソンクラ大学</p>
	<p>ベトナム ベトナム国家大学ハノイ校 ベトナム国家大学ホーチミン市校 カントー大学</p>	



**ASEAN
University
Network**

**Quality
Assurance**

- ・ **1998年**
AUN理事会により、AUN
における質保証活動が
開始。
- ・ **2000年**
AUN加盟大学の長が、
当該質保証活動にかか
るバンコク・アコードに署
名。



高等教育の課題～これまでと現在～

グローバル化と、十分な教育を受け、卓越性を持ち、異文化環境でも働く能力を備えた人材を求める労働市場の需要増加に応える高等教育機関への要求

AUN加盟大学間の連携協力

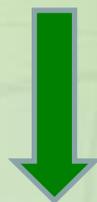
学生移動、単位互換、越境教育、国境なき高等教育(ボローニャ・プロセス)

国際化



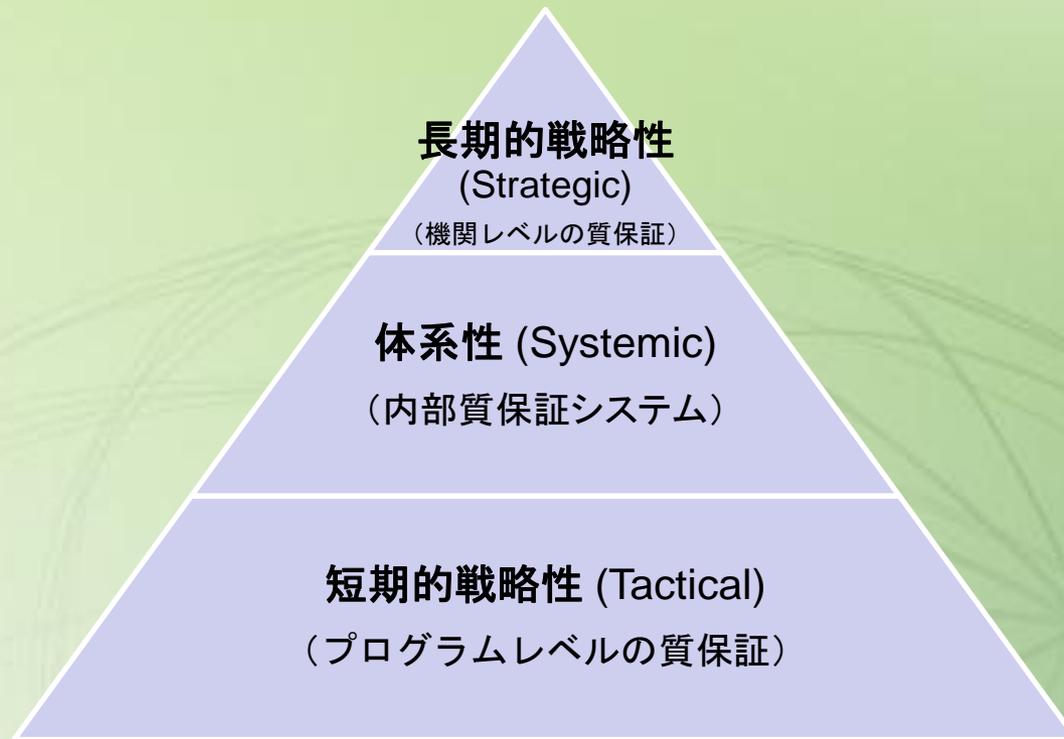
特定されたニーズ

AUNにおけるプログラム別・機関別のアセスメントに適用可能な、広く合意された水準・基準に基づき、**調和が図られた**質保証システム



AUN質保証基準・ガイドライン

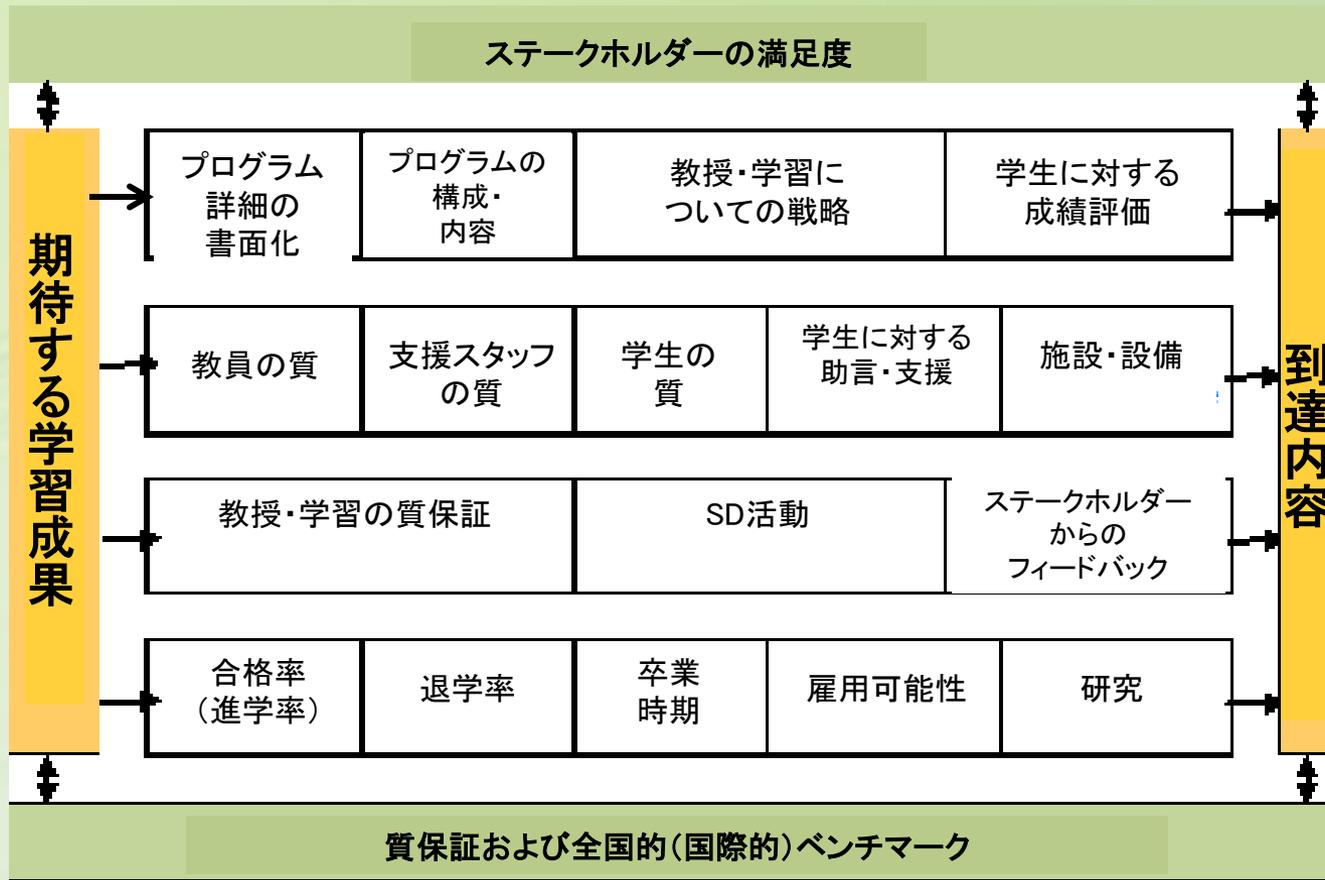




AUN高等教育質保証モデル



AUN質保証モデル(プログラムレベル)



AUNプログラムアセスメントにおける15基準

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1. 期待する学習成果 | 9. 学生に対する助言・支援 |
| 2. プログラム詳細の書面化 | 10. 施設・設備 |
| 3. プログラムの構成・内容 | 11. 教授・学習プロセスの質保証 |
| 4. 教授・学習についての戦略 | 12. SD活動 |
| 5. 学生に対する成績評価 | 13. ステークホルダーからのフィードバック |
| 6. 教員の質 | 14. 卒業生の質・学習成果の到達状況 |
| 7. 支援スタッフの質 | 15. ステークホルダーの満足度 |
| 8. 学生の質 | |



教授・学習の質にかかる7段階評定

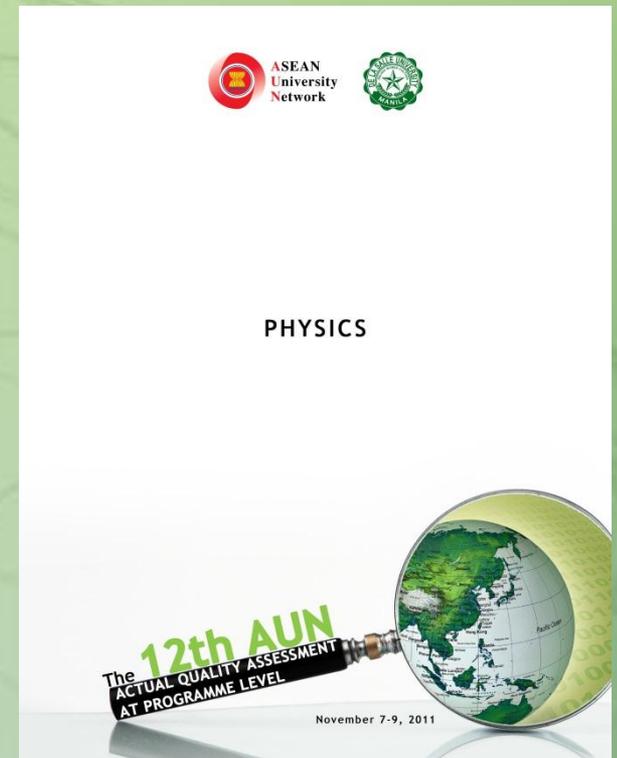
評定	内容
1	大幅に基準を下回る。直ちに改善を要する。
2	不十分。改善を要する。
3	不十分だが、わずかな改善で基準を満たす。
4	基準(AUN質保証ガイドライン・基準)を満たす。
5	基準(AUN質保証ガイドライン・基準)を上回る。
6	優良な事例である。
7	卓越している(世界水準もしくは先進的な取り組みである)。



AUN質保証アセスメントの主なステップ

1. 受審側による自己評価書の作成(6~9ヶ月)

- 15基準に照らして、学科において当該プログラムのレビューを実施
- 優れている点と改善を要する部分を特定
- 当該プログラムにおいて、質に関する計画書を作成
- 自己評価書を提出



AUN質保証アセスメントの主なステップ

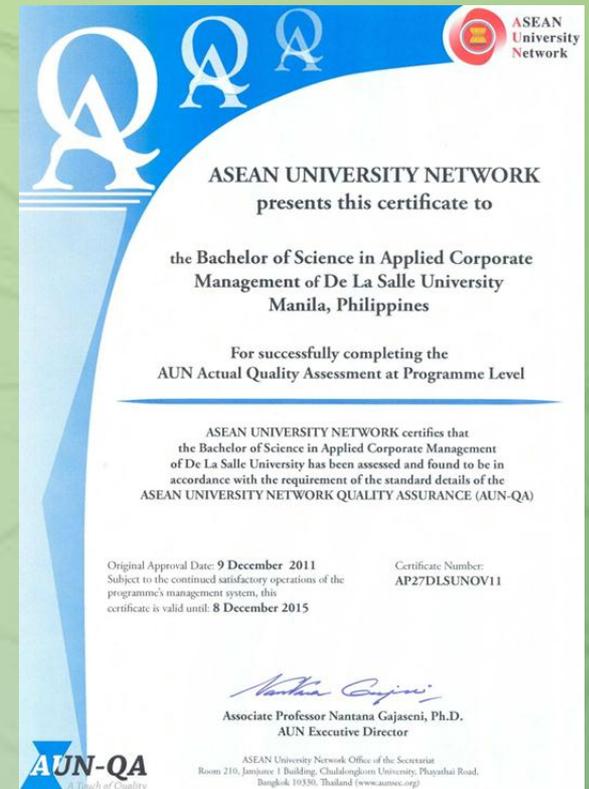
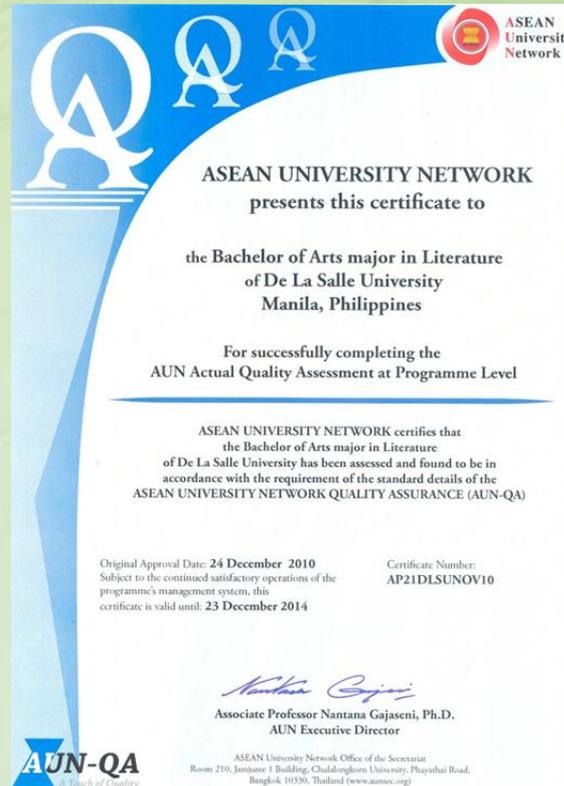
2. 当該大学以外の国の評価者で構成される評価チームによる3日間の訪問調査

- インタビュー
 - プログラム事務担当
 - 教員・支援スタッフ
 - 学生
 - 雇用主
 - 卒業生
- 書面調査
- キャンパス・施設見学
- 訪問調査所見の伝達



AUN質保証アセスメントの主なステップ

3. 評価者による報告書作成
4. AUN質保証サーティフィケートの発行



プログラムアセスメントの実施状況

- ・ 2007年のアセスメント開始から2013年10月1日までに、44件のプログラムが受審
- ・ 2013年末までに、14件のプログラムアセスメントを実施予定
- ・ ASEAN質保証プロジェクト(ASEAN QA Project: AUNと連携団体による評価研修事業)において、22件のプログラムアセスメントを実施



デ・ラ・サール大学における AUN質保証プログラムアセスメントの実施状況

受審済	今後受審予定
化学工学（2008年）	国際関係学（2013年11月）
経済学（2008年）	土木工学（2013年11月）
化学（2010年）	数学（2013年11月）
文学（2010年）	統計学（2013年11月）
心理学（2010年）	
応用企業経営（2011年）	
ソフトウェア技術（2011年）	
物理学（2011年）	



AUN質保証アセスメントで得た経験

- ・ 各学科におけるAUNの質保証アセスメントを受審するかどうかの決定は、以下の点が大きな動機となる。
 - 地域における当該プログラムの認知度
 - 海外大学の教員による外部からの評価
 - 将来的な単位互換と学生の移動
- ・ 自己評価書の作成過程において、各学部は、ステークホルダーを巻き込みながら、プログラムの徹底的なレビューを行うこととなる。



AUN質保証アセスメントで得た経験

- ・ アセスメントでは、プログラム詳細の書面化・公表（期待する学習成果、コンピテンシー、学習についての戦略、ステークホルダーの参画、ウェブサイト、プログラム便覧）といった**透明性**が強く求められる。
- ・ 透明性 → 便覧やウェブサイト、AUNやアセスメントチームでのプログラム情報の発信



AUN質保証アセスメントで得た経験

- ・ 外部評価者による訪問調査やインタビューが学生、卒業生、雇用主に与えた影響（評価者のインプットや、地域におけるプログラムの認知度への影響）
- ・ 地域の教育制度や教授・学習のベストプラクティス、連携協力の可能性を共有する機会
- ・ 質保証にさらに献身し、実践



プログラムアセスメントから 自発的な取り組みへ

- ・ 評価者による報告書 - プログラムの優れた点と改善を要する部分
- ・ ステークホルダー、特に卒業生と雇用主からのフィードバックの仕組みの構造化
- ・ 機関別のAUN質保証アセスメントの自発的な受審



デ・ラ・サール大学における ACTS (ASEAN単位互換制度) の活用

- ・ 2012－2013学事年度より、デ・ラ・サール大学のACTSプログラムに、ブルネイ・ダルサラーム大学とインドネシア大学から4つの学生グループが履修登録。
- ・ 選択されたプログラム：数学、教養、コンピュータ研究、教育
- ・ デ・ラ・サール大学が選択された理由：学年暦が一致。デ・ラ・サール大学では 教授言語として英語を使用。フィリピンとのつながり。



学内方針の見直し

- デ・ラ・サール大学の学年暦の見直しを行い、6月開始から9月開始に変更する
 - ・ 2015年に向けたASEAN共同体構築を考慮
 - ・ ASEAN地域内外の大学の学年暦との調和を高めるため
- AUNのアセスメントを受けたプログラムとして、学生交流・単位互換プログラムの推進力とする



ありがとうございました

